酒田市
自治連合会報
第126号
発行責任者
酒田市自治会連合会
会長 小野　英男

一人ひとりが豊かに、幸せに、安全・安心に暮らせるまちを創る

酒田市は令和７年11月１日に市町合併20周年を迎えます。この節目の年に、酒田商業高校跡地に「いろは蔵パーク」がオープンするほか、外航クルーズ船の寄港増加などにより、更なる交流人口の拡大や賑わいの創出が期待されています。

令和７年度は、昨年７月の大雨災害からの復旧・復興を最優先とし、引き続き人口減少対策に主な焦点を当て、４つの項目に重点的に取り組み、まちづくりを進めます。

令和六年七月二十五日からの大雨による災害に係る復旧・復興方針に基づく取組み

1　住まいと暮らしの再建

●被災住宅などの復旧や浸水被害を受けた空き家の解体・修繕を支援するほか、被災者生活支援・地域支え合いセンターにおいて引き続き被災者の相談に応じます。

2　社会インフラの復旧・機能強化

●市の管理道路、橋りょう、河川、上下水道施設の復旧を進めるほか、山形県や国の管理河川、道路などの復旧・機能強化についても連携して進めていきます。

3　地域産業や地域活力の再生

●農地、農業用施設、林道の復旧を進めるほか、ドローンによるリモートセンシングで冠水した圃場を画像診断し、生産力の回復に向けた土づくりへ誘導します。

4　災害対応の検証に基づく防災対策の強化

●今回の大雨災害を検証し、情報の伝達、避難のあり方、地域の協力態勢なども含め、防災対策を見直します。

重点４項目と主な取組み

1　豊かに暮らす ～市民の所得向上と若者・女性の定住促進～

●若者が地域への愛着を持ち、世代間のつながりを構築することを目的に、若者による地域課題解決に向けた取組みを支援する酒田コミュニティ財団の立ち上げに協力します。

●「美酒美食のまち酒田」プロモーションやインバウンド誘客、ＪＲ陸羽西線再開キャンペーンなどに取り組む一般財団法人酒田ＤＭＯの活動を支援します。

●一部地域では農事組合法人を中心とした集落営農の持続が困難になりつつあるため、既存組織の合併・統合や雇用を前提とした組織への転換を促す支援を行います。

●八幡・松山・平田地域及び飛島に配置してきた地域おこし協力隊の配置を市内全域に拡大し、地域活性化と移住・定住を促進します。

2　幸せに暮らす ～一人ひとりの活躍が大切にされる共生社会の実現～

●市民のジェンダー平等や人権に対する理解を促進するため、庄内地区高校演劇部の公演と男女共同参画講演会などを組み合わせたイベントを開催します。

●国の幼児教育・保育の無償化の

寒河江市に出現した出来立ての二つの施設を訪ねて！

調査研修部長　佐藤　剛

令和六年九月二十五日、好天に恵まれ福祉バスは自治連理事総勢二十七人を乗せ寒河江に向かった。

最初に訪れたのは、四月にオープンした**「屋内型児童遊戯施設クラッピン寒河江」**この施設で大切にしていることは、①クリエイティブ（創造的）のチカラ②運動のチカラ③コミュニケーション（意思疎通）のチカラで子供たちにとって「アソビ」と「マナビ」は、健全な体と心と豊かな想像力を生み出す原動力で、三つのチカラを柱とし、グローバルな未来を担う子供たちの基礎能力と非認知能力の育成を目指すとあった。合言葉は「アソビとマナビ、未知なる世界を体験しよう」とのこと。建物内は広くとてもきれいで、たくさんの幼児が遊具で遊んだり走り回ったり楽しんでいた。無料の子育て施設として若い母親たちの強い要望が実り、県内外から利用者が集まってきている様子であった。

午後から見学に訪れた先は、７月に寒河江市の中央工業団地に屋内でクライミングを楽しめる施設としてオープンした**「ノバリアクライミングジム」**で、障害者に働く場を提供する就労継続支援Ａ型の事業所として健常者と仕事を通し交流の場となるよう期待されている。現在は六人の障害者がスタッフとして携わり、障害の程度により館内の掃除や受付、併設するカフェの調理や配膳などを担当していた。ノバリアとは、障害のある人もない人もみんな平等だという意味を込めている。館内は初心者から上級者エリアに分かれていて、子供からベテランのクライマーまで楽しむことができるようになっている。館内のクライミングホールドは、鮮やかな色彩で美しく、同じ色をたどって登っていくそうだが、国内最大級の高さ十七メートルのリードクライミング壁は、近くで見ると圧巻の迫力であった。

今回見学した二つの施設は、時代の先を見据えたもので、子供や若い人たちには、この先十分に楽しめることだろう。

酒田警察署との意見交換会

交通部長　那須　堅二

先日、酒田警察の署長、生活安全課長、地域課長、交通課長、警備課長を交えて意見交換会を行いました。

まず始めに署長からの挨拶をいただき、続いて各課長から活動内容や管内の事故・事件の報告がありました。

その中で、近年はＳＮＳを悪用した特殊詐欺犯罪が、山形県内でも急増中であるとの内容がありました。「お金の送金を求めてきた」「必ず儲かる」「親しくなってお金の話しが出て来た」この三つの話しが出てきたら詐欺である可能性が極めて高いとのことなので、このような話しに騙されないことが重要だと感じました。

又、令和六年十一月一日から道路交通法改正により自転車のスマホ使用、酒気帯び運転が罰則強化になりました。

それから、頻発する自然災害においては早期避難と避難継続で、あなたの避難が他人の命も救う、といった注意喚起が各課長よりありました。

今後も各自治会では、警察署と交番からの情報に関心を持ち、「自助」を日頃から備えておくことが最も大切であると再認識しました。

編集人語

◆「スフィア基準に満たない避難所に、環境改善の取り組み始まる」こんな見出しの記事が目に止まった。読んでいく内に、日本の避難所が国際基準以下だったことに納得！　（今野）

◆この時期は、年度末と言うことで、人事異動で職場が変わる人がいたり、また自治会でも役員交代があったりします。親しい人との別れは寂しいですが、すぐに新しい出会いがやってきます。新年度が、順風満帆にスタートできるよう祈っています。　（足達）

酒田市自治会連合会事務局
酒田市新橋二丁目一―十九
☎（二二三）八一八七

この会報は赤い羽根共同募金の助成金により発行しています。

対象になっていない世帯に対し山形県と連携して取り組んでいる保育料負担軽減事業の対象世帯を拡大します。

●学校や教育支援センターに通うことが困難な児童生徒に対し、人とのつながりを持つことができる新たな居場所をメタバース上で提供するシステムを構築します。

●若者・女性を含めたまちづくりの担い手を増やすため、副業人材の官民共創プランナーとともにシティプロモーションの方向性を定め、取組みを進めます。

3　安全・安心に暮らす
～災害からの復旧・復興と安全・安心のまちづくり～

●水害時における消防団員の安全確保及び災害対応能力の向上を図るため、消防団用の救命胴衣を整備します。

●道路冠水の発生頻度が高い地域について雨水管理総合計画（仮称）を策定し、計画的な雨水対策に取り組みます。

●都市公園の松くい虫被害木の伐倒や薬剤注入により被害の拡大を防ぎ、美しい公園を維持します。

●成年後見制度の利用促進と円滑な制度運用を支援するため、成年後見支援センターを地域福祉センター内に設置します。

4　令和の時代に暮らす
～人口減少・気候変動等に対応したまちづくりの発想～

●中心市街地のあり方について、旧清水屋エリアを核とした中心市街地再生協議会と連携し、専門家の助言も受けながら今後の方針を定めていきます。

●市民の移動ニーズを調査分析し、令和七年度に策定する地域公共交通計画に反映させたうえで、今後の公共交通再編の方向性を検証します。

●カメラ機能や子の発育記録をチャート化する機能などがある電子版母子健康手帳アプリを導入し、妊婦や子育て世帯の利便性向上を図ります。

●再生可能エネルギーの地産地消や温室効果ガス排出量の削減などを推進するため、本市が所有する未利用地などへの太陽光発電設備の導入可能性を調査します。

令和７年度　当初予算（案）

＜重点化する４つの取組みと主な事業＞

一般会計当初予算額　６１７億円
（対前年度比較　54億5,000万円（9.7%）の増）

①豊かに暮らす
～市民の所得向上と若者・女性の定住促進～

産業振興まちづくり推進事業　1億1,757万円
【拡充】酒田コミュニティ財団の運営補助等

持続的地域営農確保総合対策事業　2,000万円
【新規】集落営農の経営基盤強化の取組みを支援

観光戦略推進事業　5,662万円
【拡充】酒田DMOの活動支援等

②幸せに暮らす
～一人ひとりの活躍が大切にされる共生社会の実現～

保育所等入所扶助事業　32億4,792万円
【拡充】無償化対象外世帯のこどもの保育料を支援

シティプロモーション推進事業　8,621万円
【拡充】シティプロモーションの取組み等

不登校支援メタバース活用事業　2,278万円
【新規】不登校児童生徒に対する支援の充実

③安全・安心に暮らす
～災害からの復旧・復興と安全・安心のまちづくり～

被災住宅復旧支援事業　5,027万円
【拡充】浸水空き家の解体及び修繕を支援

公園施設再整備事業　6,957万円
【拡充】都市公園の松枯れ被害拡大防止

地域福祉推進事業　1,978万円
【拡充】成年後見支援センターの設置・運営

④令和の時代に暮らす
～人口減少・気候変動等に対応したまちづくりの発想～

地域公共交通計画策定事業　1,080万円
【新規】地域公共交通計画の策定

こども家庭センター運営事業　3,618万円
【拡充】電子版母子健康手帳アプリの導入

ローカルSDGs推進事業　1,011万円
【新規】太陽光発電設備の導入可能性を調査

環境部研修会

環境部長　丸藤　範博

◎テーマ「生成ＡＩについて」

ＡＩを利活用することで、文章作成や事務内容が的確に表現され利便性があり、その活用で時短になることが分かった。ただＡＩは便利なツールであるが、最終的には人間が確認する必要がある。そして、利用し調べるまた行動する道具として正しく使え、ＡＩのリスクを評価し、ＡＩに対して批判的な視点を持つ能力も必要である。ＡＩは、博識なおしゃべり相手として、また場合によっては、どのような情報に基づいているかを教えてくれることもある。

ＡＩの回答は、「推測」に基づいているため、間違うこともある。そのため一つのＡＩだけでなく複数の情報源で確認する事も大事である。

ＡＩの技術とは、人間のように言葉や画像を生成できる技術、学習したデータを元に新しいデータや情報をアウトプットする技術であり、それをきちんと身に付け利用するために、家族や友人、知人にたくさん話すことや、文章を書いたり読んだりすることを大切にして、楽しく利用できればと思う。

㈱Gazi工房代表取締役　原　一宣　氏

福祉部研修会

福祉部長　船越　誠

◎テーマ
「令和六年七月の豪雨災害と市社協の対応について」
～災害ボランティアセンターの立ち上げを通して～

昨年七月二十五日からの大雨により、河川の氾濫・橋の崩落・土砂崩れ・冠水・家屋への浸水等広範囲に渡って甚大な被害が発生したため、酒田市では被災者の支援及び被災地の復旧・復興に当たるべく七月二十七日に災害ボランティアセンターを酒田市社会福祉協議会内に設置した。

今回は、多くのボランティア希望者を受け入れながら自ら毎日被災地に入って復旧活動に当たられた瀧口氏より、当初の状況を中心に三か月経過した今の状況、そして今後の取り組みまで被災地の写真を交えてのお話を拝聴した。

見せていただいた写真は、土砂で埋まってしまった家屋・ごみが散乱した車庫・泥で汚れた室内など、想像以上の悲惨な状況を映し出していた。

そんな中、床下に潜って泥を撤去したり、被災した家財道具を運び出したりするボランティアさんの姿に頭が下がった。延べ約七、九〇〇人の皆さんは、十一月三日までは休みなしの活動だったそうだ。それでもまだ作業は続いており、「たとえボランティア活動が終了しても、災害支援が終了ではない！」と強調されていた。

社会福祉協議会地域福祉課　瀧口　尚人　氏

青少年育成部研修会

青少年育成部長　五十嵐　勤

今は、小学生から学校の授業で、タブレットを自由に扱っていて、それが勉強の様々な場面で役立っている。それは、私達の時代には想像もしなかった風景であり、我々も一度体験をと、酒田市文化センターの一室でミニ授業を受けた。

酒田市は、令和三年度から、一人一台のタブレット端末を小・中学生に整備した。この目的は、全ての子ども達に付けさせたい力として市独自に定めた根の力（学びに向かう力・人間性等）、幹の力（思考力・判断力・表現力等）、葉の力（知識及び技能）と、立派に成長した樹木に例えた『学びの樹』の育成である。それは、授業で教えることを教え、子ども達に挑戦させ、考えさせて経験させる事である。

私達も実際に体験してみると、「好きな場所で好きなことを、少しずつ積み重ねていける」子ども達の気持ちと感想が理解できた。こういった取り組みは、先生にしても、先に進める子にも、少し遅れてじっくり歩む子にも、それぞれ対応できるだろう。それが理解できた青少年育成部として良い研修だった。

市教委指導主事　齋藤　葉河　氏